

子どもの宗教心に関する調査

A Survey on Children's Awareness of Religion

太 田 雅 子

現代に生きる子どもたちがどのような宗教心・宗教意識を持っているのか。その実態を調べることを研究の目的とする。キリスト教主義の私立小学校と公立小学校の5・6年生を対象にアンケート調査を実施した。調査結果から以下の点が明らかになった。神の存在については8割以上の児童が認めているが、過去のデータと比較して無神論的傾向が明らかに強くなっている。神の数についての認識は、複数神から唯一神という捉え方に変わって来ている。神の性質として、神は善良・優れているとは捉えているが、超越的・絶対的とは見てはいない。宗教教育を行っているキリスト教主義の学校と公立学校とでは、人類および万物の起源について「創造論」対「進化論」の考えに分かれた。子どもの宗教心は環境の影響を強く受けその中での学習によって獲得されるということが、改めて判明した。

1. はじめに

北陸学院短期大学において開講されている「キリスト教幼児教育」を筆者が担当するにあたり、キリスト教幼児教育の原理を追究することを開始したが、それに関連してさまざまな疑問が生じて来た。そもそも幼児は信仰をもつことができるのか。もし幼児に信仰の可能性があるとすればキリスト教幼児教育が成立するのならば、その本質は何か。またキリスト教価値観と対立する歴史的・社会的背景の中にいる日本の子どもたちへの有効的指導方法はあるのか。

しかし、これらの問題は余りにも大きい。そうした問題に立ち向かう以前に、まずは子どもたちの現状を把握しようと考えた。現代すなわち21世紀初頭に生きる子どもたちがどのような宗教心・宗教意識を持っているのか。その実態を調査することを今回の研究の目的として設定することにした。

この宗教心に関する調査を、筆者は1979年にも実施している。大学の卒業研究『現代における宗教教育のあり方について』の一環として行ったのであるが、あれからすでに4半世紀が経過し、社会もさまざまな変容を遂げた。当時と比べて、特に情報技術の進歩は目覚しく、それに付随してか、物事を合理化・効率化することに重点が置かれ、物質的な側面を強調する傾向がますます強まったように思える。それ以外にも社会に内包する価値観やイデオロギーは、当然のことながら変わって来ているであろう。

筆者が25年近く前に宗教教育に関心を持ち、それに関連しての研究に取り組もうと考えた背景には、その時代の殺伐とした世相が無神論的精神構造と関係があるように感じたからであった。さらに、シェーファー (Schaeffer)¹⁾が指摘するところの、20世紀以降に人類に浸透するよう

になった思考様式＝「絶対者」の欠如に対抗するために、宗教教育の必要性を訴えたかったからである。シェーファーによると、20世紀以前には如何なる人間も同じ前提のもとに思考・行動していた。すなわち絶対的なもの、または絶対者＝神が存在するという前提があり、「絶対的なもの」に照らしながら反定立（アンチテーゼ）という基盤に基づき論じ合い、価値判断を行う作業をしていた。この古典的方法論（弁証学）を用いて、自らを出発点とし、そこから人生に対するあらゆる思想と人生それ自体を包含するような系統的思想体系を作ることが出来ると信じていたのである。しかし結局は人間存在を解明尽くしえる合理主義的思想体系は存在しないとの結論に達し、同時に反定立という方法論を放棄し、新たな方法論を用いて人間存在を解明しようと試みた。その結果、「絶対的なもの」を価値判断基準とすることを捨て、自らが価値判断基準となり全宇宙に相対して立つことになった人間は、その不完全さ故に困惑を来し、統一性を欠いた混沌に突入した。彼の説明によれば、「絶対的なもの」欠如の思考様式は、哲学思想に精通する一部の知識人から芸術の領域に伝達され、次に娯楽芸術へと進み、さらにはマス・メディアを通して一般大衆に到るまで浸透を深めていくのである。時代は20世紀から21世紀へと移り、その浸透範囲はますます拡大されて来ていることが予想される。そして、こうした思考形式の蔓延が、子どもの宗教心・宗教意識に変化をもたらしていると推測することができる。

2. 言葉「宗教心」の定義

小原國芳²⁾は宗教心について次のように論じている。

「宗教心または宗教意識には、主観と客観との両極がある筈である。主観とは自分のことで、客観とは宗教心の対象のことで、人力以上の者、即ち、神とか仏というものである。この対象を確と把え、関係し、知解し、信仰し、或いは種々感激することが宗教である。」

岩村信二³⁾は、宗教意識、宗教心、宗教性を同義と捉え、それらは超越した存在に対する人間経験の心理的反応であると述べている。さらに宗教心は、どの宗教にも共通に見られる信仰のことであるが、キリスト教信仰は狭義的には異なるとして以下のように説明している。（キリスト教）信仰は、

「神の恵み、愛のごとき、神の呼びかけに対して人間が受け入れる全人格的存在と解する。この受容を可能にする絶対的要因は神の側にある。人間はこの神の恵みによって、神の恵みを受容する能力を与えられている。そこに人間の側からみて、すなわち心理的にみて、人間に宗教心があるといえる可能性がある。」

以上の見解を参考として、宗教心を以下のように筆者は定義したい。宗教心と宗教意識は同義語である。宗教心は、個人が超越者＝神に対して、畏敬的な結びつきを求める過程での、精神の働き（知識・感情・意志）や反応、自覚である。

しかしながら、この度の調査においては、対象が児童である点から、「神についての認識」を「宗教心」の意味として使用している。

3. 調査項目の設定に関して

小原國芳²⁾は『教育の根本問題としての宗教』の中で児童の宗教心(児童の宗教の有無や実態)の概要について、以下のように分類し項目を設けて説明している。① 神についての観念(神仏の有無、神仏の性質、数、何のために神はいるのか、形一目に見えるか) ② 霊魂および死後の観念(霊魂の有無について、応報観念、地獄極楽) ③人類および万物の創造 ④ 自然に対する観念(星、太陽、月)

1979年に筆者が実施した調査(質問紙法)は、以上の分類・項目を参考にして質問を作成した。今回の調査は、1979年とほぼ同じ内容である。(表1参照)

表1

アンケートのお願い	
このアンケートは、『子どもの宗教心(しゅうきょうしん)』に関しての教育のための調査を目的として行います。皆さんがお答えくださった内容については、研究論文の中にデーターとして記す以外で使うことはありませんのでご安心ください。	
<u>○で囲んでください。</u>	
質問1. 性別:	男 女
質問2. 神さまは、いると思いますか。	はい いいえ
質問3. 天国や地獄(じごく)はあると思いますか。	はい いいえ
<u>数字を入れてください。</u>	
質問4. 神さまは何人いますか。	()人
<u>質問の下のあいているスペースに思っていることを自由に書いてください。</u>	
質問5.	神さまはどんな方だと思いますか。
質問6.	何のために神さまはいると思いますか。
質問7.	神さまはどんな方だと思いますか。
質問8.	人間は死んだらどうなると思いますか。
質問9.	人間はどうしてできたと思いますか。
質問10.	世の中のもの(花や木、空や海など)は初めにどのようにしてできたと思いますか。

4. 方法：対象と手順

2005年11月初旬に石川県金沢市内のキリスト教主義のH小学校の5・6年生と石川県白山市の公立・C小学校の6年生に対して質問紙(アンケート)を配布して記入を依頼した。同年11月下旬までに質問紙を回収し、そこから得たデーターの分析を行った。回収数はH小学校-29、

C小学校－50、合計－79であった。

5. 結果と考察

質問1から4の回答結果を表2に質問5から10を表3に示す。尚、質問5から10の自由記述は、意味を変えないように注意し、日本語表現に多少の修正を加えて記載してある。今回の調査結果を1979年の調査と比較して検討する上での参考資料として、1979年のデータを表4から表7に提示する。

表2 質問1から4の結果

問	質問内容	回 答	H小学校 (総数 :29)		C小学校 (総数 :50)	
			人 数	割 合	人 数	割 合
質問1	性別	男	9	31.03%	30	60.00%
		女	20	68.97%	20	40.00%
質問2	神様はいると思いますか	はい	23	79.31%	42	84.00%
		いいえ	6	20.69%	7	14.00%
		その他	0	0.00%	1	2.00%
質問3	天国や地獄があると思いますか	はい	17	58.62%	35	70.00%
		いいえ	8	27.59%	15	30.00%
		その他	4	13.79%	0	0.00%
		備考(その他)	天国だけある：4名			
質問4	神様は何人いますか？	0	3	10.34%	6	12.00%
		0.5	1	3.45%	0	0.00%
		1	18	62.07%	26	52.00%
		4	0	0.00%	2	4.00%
		5	0	0.00%	3	6.00%
		7	0	0.00%	6	12.00%
		10	0	0.00%	2	4.00%
		50	0	0.00%	1	2.00%
		365	0	0.00%	1	2.00%
		10000	1	3.45%	0	0.00%
		100000	1	3.45%	1	2.00%
		10000000000	1	3.45%	0	0.00%
		1000000000000	0	0.00%	1	2.00%
		たくさん	1	3.45%	0	0.00%
		人間の数	2	6.90%	0	0.00%
数えられないくらい多い	1	3.45%	0	0.00%		
?	0	0.00%	1	2.00%		

子どもの宗教心に関する調査

表3 質問5から10の結果

	H小学校 (総数: 29)	C小学校 (総数: 50)
質問5	人間のような形 20 形が無い 3 ↳目には見えず光のような存在 1 ↳空気の中にいていつも周りにいる 1 言葉では言い表せない 1 胡坐をかいている・眠っている 1 わからない 1	人間のような形 29 ↳耳が長い 1 ↳頭に輪がある 1 ↳お坊さんのような 1 仏様 1 人が想像した形 1 仏様 1 大きい 1 (絵で表現) 1 わからない 4 思いつかない 10 わからない 4
質問6	人間などを見守るため 7 ↳あるときは助言し導く 1 ↳弱虫な人間を勇気付けるため 1 統治するため 4 ↳世の中を悪くしないように 1 人間などを幸せにするため 3 ↳人々を良い方向に進ませるため 1 ↳人々を助けるため 1 ↳世の中を平和にするため 1 生きるため 2 ↳みんなが生きるため・生かされるため 1 ↳地球で人や動物や植物が生きていくため 1 ○○のため 1 ↳地球のため 1 ↳世の中のものすべてのため 1 世界のいろいろなものを作るため 1 空想 1 いるからいる 1 わからない 5	人間などを見守るため 6 ↳世界中を見守って人々を助ける 1 統治するため 8 ↳悪人を救くため 1 ↳善悪の人のため 1 ↳人間を自由にするため 1 ↳良い事をしていくか見ている 1 ↳生き物を見張る・幸運をもたらす 1 人間などを幸せにするため 7 ↳みんなの夢を叶えるため 1 ↳1つから3つまで叶えてくれる 1 ↳苦しんでいる人を助ける 1 ↳平和のため 1 生きるため・生かせるため 2 ↳生死を定めるため 1 ○○のため 2 ↳地球のため 1 ↳みんなのため 1 運命を決めるため 1 折るため 1 わからない・思いつかない 19
質問7	やさしい 16 ↳厳しいけど優しい 5 ↳にこにこしている 1 ↳完全無欠でない 1 ↳強い人間の理想・弱点が無い 1 ↳善悪の区別が出来る 2 ↳裏表が無い 1 ↳泣いているときに一緒に泣いてくれる 1 ↳オーラがある 1 ↳どれも大切に作る 1 良い人 2 すばらしい人 2 普通の人の 1 少し遊び心がある 1 地球に生きている人や動物や植物すべてが幸せに思っている 1 人に何かを聞かれたとき以外はあまりしゃべらない。無口。 1 父に似ていて少し頑固 1 空想 1 わからない 2	やさしい 21 ↳厳しいけど優しい 3 ↳髪長い女の子の人 1 ↳気がいい 1 ↳困っているときに助ける 1 良い人 2 偉い人 1 ↳性格がいい 4 ↳人を思いやる気持ちがある 1 ↳心の広い人 1 (見た目で) 7 ↳麗を生やしているおじさん 2 ↳女の子でもおじさんでもある男の人でもある 1 ↳男で若い 1 ↳おじさん 1 ↳おじいちゃん 1 ↳世界で一番最初に死んだ男女 1 普通の人の 1 凡人 1 わからない 9
質問8	天国か地獄に行く 10 ↳魂が天国に行く 1 ↳良い人は天国へ悪い人は地獄へ行く 1 ↳天国のような世界で生き続ける 1 ↳天国に行くと神様にあうか未練があるとお化けになる 1 ↳魂は神のところへ行く 1 ↳死んだ人の世界に生きる 1 生まれ変わる 8 ↳この世を幽霊となってさまようか生まれ変わる 1 ↳魂になる 1 ↳精霊になるか悪霊になる 1 ↳この世界に戻ってくる 1 ↳魂の記憶だけとして新しい人になる 1 ↳自分も神様の仲間となる 1 ↳肉体と魂が離れてその後魂が新しい肉体を作る 1 どこかに行く 3 ↳死んでしまった人同志で集まる 1 ↳魂が旅に出て広場のようなところへ行く 1 幸せになる 1 安らかに今までの疲れを取るために寝る 1 もう終わり・何も起こらない 2 (別枠参照) ※1 1 分からない 3	天国か地獄に行く 15 ↳魂だけが行く/霊になって行く 2 ↳体から離れて神によってどちらに行くか決められる 1 生まれ変わる 11 ↳違う人になる 3 ↳天使になる 1 ↳100年後に生き返る 1 ↳天国か地獄に行った後に生まれ変わる 1 どこかに行く 4 ↳三途の川へ行く 1 ↳楽なところへ行く 1 ↳あの世に行く 1 ↳空でみんなの事を見ている 1 墓に埋められる 3 ↳気が無くなり何も感じなくなる 2 ↳寝ているような感じ 1 ↳死んだら終わり 1 知らない/分からない 11
質問9	進化の過程で出来た・サルからの進化 6 ↳有機物からの進化 1 神様が創った 14 ↳神が必要だと思ったから 3 ↳神が地球を治めるため 1 ↳神が一人ぼっちで寂しかったから 1 ↳神があるものに魂を宿らせて 1 ↳ (別枠参照) ※2 1 世界の未来を開くため 1 地球に必要だから 1 人間がどうして出来たかを知るために 1 同じ(?) 1 わからない・200万年前に行ったことがないからわからない 5	進化の過程で出来た 31 ↳サルからの進化 27 ↳ゴリラからの進化 1 ↳動物からの進化 1 ↳不自由をなくすため古代生物から進化 1 ↳海人から変化 1 神様が創った 4 ↳神様が寂しかったから 1 ↳生きるため 1 ↳DNA? 1 ↳運命 1 わからない 12
質問10	進化の過程で出来た 4 ↳宇宙の過程でできた 2 神様が創った 6 ↳神様が人間のすみかとしてつかった 1 自然現象によって 2 ↳自然現象の異変 1 ↳雨を降らして生物を使つた 1 種などによって 3 ↳本生えてその後たくさん増えた 1 ↳生き続けるために人間に合った生活を送るため 1 ↳絵を描くように粘土で作るために 1 わからない・46億年前に行ったことがないから分からない 11	進化の過程で出来た 3 ↳サルの前から出来ていると思う 1 ↳海から生まれた 1 神様が創った 3 ↳神様が種をまいた 1 ↳自然現象によって 7 ↳ビックバンがおきたから 1 ↳星同士がぶつかり表面が冷め雨が降る 1 ↳地球の環境で育つた 1 ↳ (別枠参照) ※3 1 ↳偶然があつたから 1 種などによって 4 ↳花は種から海は氷が解けて 1 ↳植物は種から空は酸素があるから 1 ↳海は砂の下の水が沸いて木花は自然環境 1 自然に出来た 5 ↳地球の出来たときからあつた 1 ↳宇宙のどこからか地球に来た 1 わからない・思いつかない・想像がつかない 25

※1 決して永遠の命をもらえるわけではない。なぜなら人間は生きている今が大切だから。しかし、心は安らぎに包まれる。その状態が天国であり、安心感に包まれた場所である。

※2 基本的には進化論のとおりであるがそれを導いたのは神様である。ただ、神様は人間を特別にしたわけではなくある程度まで作つたら後は見守っている。動物を含むすべてのものに治める権利がある。

※3 太陽の熱気と日の冷気で大気が出来て雨が降る。海ができ、空は地球から見える宇宙を表す。

注：太字がグループで数字は合計人数を示している。"L"はそのグループ内での意見を示している。

太 田 雅 子

質問2. <神様はいると思いますか>に対して、「はい」と答えた人数は**全体で68人(79人中) - 82.3%**、「いいえ」は**13人 - 16.5%**であった。小原國芳²⁾が1919年頃に行った調査では、神の存在を否定している割合は1.5%であり、1979年の調査では10.5%であった(表4参照)。今回の調査では86年前の10倍以上、26年前からは1.6倍近くが神の存在を否定している。学校による比較では、キリスト教主義のH小学校のほうが、公立のC小学校よりも神の存在を否定している割合において、高い数値を示している。

表4 神さまはいると思いますか

		<はい>					<いいえ>				
学年	学校	T	O	R	計	%	T	O	R	計	%
		2 (117名)	男 女	18 19	16 21	17 18	37 35	109 93.2	0 0	2 (2) 4 (2)	3 4 (1)
4 (107名)	男 女	14 16	15 18	17 16	30 33	96 89.7	3 (3) 0	4 (3) 5 (3) 1	2 (1) 2 (1) 0	10 (7)	9.3 (1.2) 8.1
6 (117名)	男 女	14 18	9 20	19 16	29 35	96 82.8	2 (2) 5 (5) 3 (3)	8 (1) 8 (1) 0	3 5 2	18 (6)	15.5 (5.2) 10.3
計 (340名)		99	99	103	301		8 (8)	17 (6)	11 (2)	36 (16)	
%		92.5	83.2	90.4		88.5	7.5 (7.5) 0	14.3 (5.0) 9.3	9.6 (1.8) 7.8		10.5 (4.7) 5.8

※・T小- 東京都町田市にある私立小学校、キリスト教主義ではないが、宗教教育をカリキュラムに取り入れており、創設者がクリスチャンであったことから週1回キリスト教形式の礼拝の時間を持っている。
 ・O小- 神奈川県海老名市にある公立小学校
 ・R小- 神奈川県綾瀬市にある公立小学校
 ・回収数は合計340：T小-107、O小-119、R小-114
 ※ () は、「いいえ」と答えたにもかかわらず、その他の質問において、神がいることを前提として記述している数である。□は、純粹に神の存在を否定している者のパーセントを表している。O小4年と6年の男子計3名が「わからない」と答えている為に合計が100%とならない。

子どもの宗教心に関する調査

質問3. <天国や地獄はあると思いますか>に対しては、「はい」が全体で52人-65.8%、「いえ」は23人-29.1%であった。H小学校の「その他」の4人は「天国だけある」と答えている。これを天国や地獄があるとする数に含めると、H小学校の割合は72.4%となり、全体で7割以上の子どもが天国や地獄はあると認識していることになる。

質問4. <神さまは何人いますか>に対しては「ひとり」と答えている人数が最も多く、全体で44人-55.7%であった。表2のC小学校で最下位の欄の「？」は次のようなコメント内容であった。「神はいろんな形でこの世にいるが、それはすべて同じである。いろんな宗教があるが、それは同じ神さまをいろんな方向から見たものである。」

神は「ひとり」とであると考えている生徒の割合はキリスト教主義のH小学校の方が1割近く高い。その理由として、キリスト教が唯一神であり、それによる宗教教育の結果であることが窺える。小原の調査では6.7%、1979年の調査では50.2%であった(表5参照)。こうした数値の変化については、「やおよろず(八百万)の神」という考えが、時代の変遷と共に、欧米の文化の影響を受けてキリスト教的神観念に変わって来たと言えるのかも知れない。

表5 神さまは何人いますか

学年	T小学校	人数	O小学校	人数	R小学校	人数	計	<1人>の計	
2	男	1人-11 (64.7%) 無数-3 5人ぐらい 10人ぐらい わからない	17	1人-0 (0%) 2人-2 3人-8 4人-4 5人-2 31人ぐらい 50人ぐらい	18	1人-5 (29.4%) 8人-3 無数-3 100人-2 6人 3人 4人 50人	17	52	16 (30.8%)
	女	1人-13 (76.5%) 2人 7人ぐらい 無数 わからない	17	1人-5 (21.7%) 2人-5 3人-6 5人-3 10人-2 12人 50人ぐらい	23	1人-7 (36.8%) 5人-3 18人-3 2人-2 3人 4人 10人 100人	19	59	25 (42.4%)
4	男	1人-8 (50.0%) 5人ぐらい-2 6人 7人 10人 11人 無数	16	1人-8 (44.4%) 5人-3 無数-3 わからない-3 8人	18	1人-9 (50.0%) 2人-4 5人 11人 5~13人 100人 120人	18	52	25 (48.1%)
	女	1人-8 (50.0%) 無数-4 5人-2 4人 6人	16	1人-15 (83.3%) 2人 5人 無数	18	1人-13 (81.3%) 4人 7人 180人	16	50	36 (72.0%)

表5 (続き)

学年	T小学校	人数	O小学校	人数	R小学校	人数	計	<1人>の計	
6	男	1人-9 (56.3%) 無数-3 2人 7人以上 わからない	16	1人-1 (9.1%) 2人 3人-2 5人 6人 7人 無数 77人 わからない	11	1人-6 (33.3%) 無数-5 3人-2 5人-2 2人 10人	18	45	16 (35.6%)
	女	1人-19 (90.5%) 2人 無数	21	1人-11 (57.9%) 2人-3 7人-2 無数-3	19	1人-9 (60.0%) 2人-2 3-4人 4人 無数-2	15	55	39 (71.0%)
計		103		107		103	313	157	
<1人>の計	68 (66.0%)		40 (37.4%)		49 (47.6%)			157 (50.2%)	

質問5. <神様はどんな形をしていますか>についての自由記述では、「人間のようである」といった内容が圧倒的に多かった。大正時代の小原の調査や1979年の調査結果(表6参照)においても、最も多い答えは「人の形」というものである。このような認識をもつ理由は何であろうか。児童期の認知や学習における発達の特徴であるのか、日本人の一般的な認識であるのか、今後の調査課題の一つとしたい。C小学校では4人が以下のような絵で表現している。ひげをはやしている男性。ウルトラマンのようで頭に輪がある男性。羽やひげがある男性。雲に乗り杖を持っているひげのある男性。以上のように羽や頭の上に輪があるなどの天使のイメージやひげのある老人を想像した答えも比較的多かった。このようなイメージは、何かで見たり聞いたりした個人の経験からくるものであると小原²⁾は述べている。「現在でも自分の頭に浮かぶ神像は、視覚心像に支配されて居る。」

キリスト教主義のH小学校では、「目には見えない」「形がない」といった記述が見られた。これは聖書の「神は霊である」という考えを反映していることが窺える。

子どもの宗教心に関する調査

表6 神さまはどんな形をしていますか

2 年	4 年	6 年
<ul style="list-style-type: none"> ・人間と同じような形 ・おじいさんのよう ・ひげがある ・白い服を着ている ・丸い顔で髪の毛の長さが耳の上くらい ・ウルトラマンのように大きな形 ・ひもや変った棒を持っている ・痩せている ・頭の上に輪がある ・石の像で何かを体に巻きつけている ・お坊さんのような形 ・仏像のなかにいる 		
<ul style="list-style-type: none"> ・天じゃ様みたい ・つぼの形 ・長四角 ・五角形 ・丸 ・家のような形 ・雲のような形 ・骸骨のような形 ・背中に羽があり、白い服を着て頭の上に金の輪がある ・美しい形に、美しい羽、美しい色の長い髪を持っている ・老人で黒い服を着て雲に乗っている ・天狗の顔をしている ・三角形 ・ひげがあり、ドレス風の服を着て、首には十字架のネックレス、頭の上には金の輪があり、背中には羽がある ・木の葉の冠をかぶり白い服を着ている ・人間には想像できない変形する形で心の中にいる ・色々な形をしている。 ・霊者だから形はない(T小) ・目には見えない ・形はない ・時のよって形は変わる ・幽霊のよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間に似た形 ・人間の形 ・見えないからわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目には見えない

質問6. <何のために神さまはいると思いますか>に対しては、答えるのが困難な質問であったのか「わからない」または空欄が全体の3分の1以上であった。しかし記述されている内容を見ると、人々を守るため、助けるため、幸せにするため等、神について肯定的な捉え方をしている。

質問7. <神さまはどんな方だと思いますか>に対しては、「やさしい」との記述が最も多かった。その他「偉い人」「よい人」といった徳目美点を書いている生徒が大半を占めている。1979年の調査結果(表7-1～7-3参照)もこれと類似しており、子どもは神さまを「やさしい方」と捉えているようである。1979年の調査では、神の「全知全能」という特質についての記述も見られたが、今回はそれが全くなかった。H小学校では、全員が内面的特質について書いている。それに対してC小学校では「髪の毛の長い女の人」「ひげの生えているおじいさん」など7人が、表面的・視覚的特徴を記述している。

太 田 雅 子

表7-1 神さまはどんな方だとおもいますか <徳目美点的>

2 年	4 年	6 年
<ul style="list-style-type: none"> ・ やさしい方 ・ 良い方 ・ 偉い方 ・ 親切な方 ・ 正しい方 ・ きびしい方 ・ 身体が丈夫な方 ・ 困っている時(人)を助けてくれる方 ・ 人間を見守ってくれる方 ・ 人の願いをかなえてくれる方 ・ 悪いことをするとばちをあてる方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やさしい方 ・ 偉い方 ・ 正しい方 ・ 良い方 ・ りっぱな方 ・ 正直な方 ・ 親切な方 ・ 心の清い方 ・ 楽しい方 ・ 思いやりのある方 ・ やさしい目をしている方 ・ うそをつかない方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やさしい方 ・ 偉い方 ・ 親切な方 ・ 美しい方 ・ 心の広い方 ・ 静かな方 ・ 光のような方 ・ 正直でうそをつかない方 ・ 情け深い方 ・ 全世界、宇宙で一番心のきれいな方 ・ 尊い方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪い人を懲らしめる方 ・ 心のやさしい人が好きな方 ・ いやな方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少し恐い方 ・ 一人で寂しい方 ・ 人のいやなことを進んでする方(T小) ・ 人間を守って下さる方 ・ 困っている人を助けてくれる方 ・ お祈りしたことをかなえてくれる方 ・ 励ましてくれる方 ・ 良いもののみかた ・ 人の心をきれいにする方 ・ 注意のできるいい方 ・ 人の失敗を許してくれる方 ・ 人が悪いことをしても許し人間一人一人を愛している方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ きびしい方 ・ 怖い方 ・ 世のために身を捧げ尽くしてくれる方 ・ 時には強く普段は穏やか ・ どんな人にも誠実な方 ・ 平等に私たちを見守ってくれる方 ・ 苦しい時、悲しい時助けてくれる ・ みんなの願いをかなえてくれる ・ 心がけの良い人に幸福をもたらす方 ・ 強い心を持たせてくれる方 ・ 悪を憎む方 ・ 間違った行いをする者を正しく直す

表7-2 神さまはどんな方だとおもいますか <全知・全能>

2 年	4 年	6 年
<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーマンのような方 ・ 何でもできる方 ・ 何でも聞いてくれる方 ・ 大きな力を持っている方 ・ 魔法が使える方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何でもできる方 ・ いろいろなものを作って下さる方 ・ 天気を自由に変えられ何でもできる方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何でもできる方 ・ 目に見えない不思議な力を持っている
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間や動物の気持ちを理解している方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の思っていることがわかる ・ 人の心を測ったりする

表7-3 神さまはどんな方だとおもいますか <その他>

2 年	4 年	6 年
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひげをはやしている ・ おじいさんのよう ・ お坊さんの形をしている ・ 偉い(やさしい)神様と悪い神様がいます 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気を追い払う為にいる ・ 死んだ偉い人 ・ 死の神とやさしい神がおり、死の神は悪い人を死の世界へ、やさしい神はやさしい人を皆天国に連れて行く。 ・ 神はあと何年かして1番最初に作ったエデンの園のように美しく楽しい楽園を約束されていて私たちの事を考えてくれていてやさしい神(O小) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聖書に出てくる方(T小) ・ イエス・キリストのような方(T・R小) ・ 愛の神・救いの神・いやしの神(O小) ・ 私達罪人を救い、私たちの代わりに死んで下さった方(O小) ・ 人間以外の方 ・ 普通の人間 ・ 水戸黄門のような方 ・ 福の神と貧乏神だがどちらもやさしい

子どもの宗教心に関する調査

質問8.<人間は死んだらどうなると思いますか>に対しては、「天国か地獄へいく」という答えが最も多かった。「生まれ変わる」という輪廻思想的内容は、C小学校では9件あったのに対して、H小学校では1件だけであった。

質問9.<人間はどうしてできたと思いますか>については、学校による違いが明確に表われている。公立のC小学校では、50人中31人—62%が「サル(ゴリラ、動物、古代生物、海人)からの進化」と答えている。「神による創造」との答えは4件。「わからない」は12人—24%であった。キリスト教主義のH小学校では、「進化の過程」との答えは6件、「わからない」が5件であった。「神による創造」が14人—44.8%で大きな割合を占めているが、これは「人間は神によって創造された」という聖書の考えが反映されている結果であると推測される。

質問10.<世界のものは初めにどのようにできたと思いますか>に対しては、37人—46.8%が「わからない」と答えており、回答に苦慮している様子が窺える。最も件数が高かった答えは、H小学校では「神による創造」(3件)、C小学校では「ビックバンなどの自然現象によって」(7件)であった。

この調査結果から見えて来たことは、神の存在については8割以上の児童が認めているものの、無神論的傾向が明らかに強くなっているという点である。神の数についての認識としては、複数神から唯一神という捉え方に変わって来ていることがわかった。神の性質として、神は善良・優れているとは捉えているが、超越的・絶対的とは見ていないことがわかった。現代においては、神に対する「畏敬の念」が失われて来ていると言えるのかも知れない。宗教教育を行っているキリスト教主義の学校と公立学校との違いは、人類および万物の起源について「創造論」か「進化論」かの議論とも結びつく内容であった。小学校高学年の児童ともなると、それなりの理論的展開ができているが、彼らの考え方は、学校の授業や本・テレビなどからの知識によるものであろう。子どもの宗教心は環境の影響を大きく受け、学習によって獲得されるということが、今回の調査からもはっきりした。

6. おわりに

今回の調査は、小学校の高学年を対象として行ったが、対象が幼児となった場合には、当然のことながらその結果が異なることが予想される。幼児を対象とした調査は限定されている。数少ない研究の中、佐藤初重⁴⁾が『幼児における宗教意識の発達』の中で興味深い報告をしている。この調査は、全国80ヶ所のキリスト教主義の幼稚園・保育園において実施され、保護者の宗教の違いによる比較・検討を行っている点で興味深い。表8に示す数値を見ると、神の存在に対する意識が家庭環境の影響を受けていることがわかる。また年齢の違いでは、3歳から4歳の間に大きな数値的变化が見られるが、この年齢による変化の原因については、佐藤は言及していない。

津守真⁵⁾は幼児期後期に発達する同一化メカニズムが、子どもの宗教心の変化に関係することを示唆している。善悪の基準や価値基準は、子どもが身近な大人に自分自身を同一化することによって取り込まれる。宗教的基準も同様であり、キリスト教主義の幼稚園・保育園の宗教的基準が子どもの宗教心や態度の形成に関与することは考えられる。しかしながら、幼児の生活の中心は家

庭であり、幼稚園・保育園と家庭の基準が一致しない場合は効果が薄いと津守は説明を加えている。

表8 幼児における宗教意識の発達－神仏の存在の有無（佐藤初江） (%)

保護者の宗教	神仏の存在	年 齢				平均
		3歳	4歳	5歳	6歳	
キリスト教	いる	100	100	100	100	100
	いない	0	0	0	0	0
仏教	いる	93	97	98	95	96
	いない	7	3	2	5	4
無宗教	いる	45	79	88	87	85
	いない	5	4	2	3	3
全体平均	いる	77	94	95	94	95
	いない	6	3	3	4	3

今回の宗教心の調査において、キリスト教主義の学校と公立学校の生徒の間において、一部を除いては決定的な違いがなかったことからしても、家庭からの影響が大きいことが窺われる。またマスメディアを通して得た知識が宗教心・宗教意識の形成に関与することが考えられる。故にキリスト教教育・キリスト教幼児教育が営まれる場のひとつとしての、「キリスト教主義」学校・幼稚園・保育園には、子どもの家庭や周辺社会の影響力を考慮し、それに対抗できる効果的な宗教教育の実践方法の発見に取り組むことが、今後ますます求められるであろう。

キリスト教「主義」教育と呼ばれる場合の意味について、小林公一⁶⁾は次のように説明している。

「日本という異教社会（非キリスト教世界）において、キリスト教による教育が日本の社会に対して示す『主体的』な『態度』に関していわれる表現なのである。キリスト教が、日本という異教社会（非キリスト教世界）に対して、異質的なものであり、対立的なものであるという自覚がキリスト者によって明白に意識されているからこそ、キリスト教主義ということがあえて言われるのである。」

また、小林はキリスト教教育における目的を明確にすることの重要性を語っている。「キリスト教への教育」という意味に使われる場合は、キリスト教信仰へ導く教育という目的があり、「キリスト教による教育」の場合は、キリスト教による人間形成が目的となり、キリスト教学校（幼稚園・保育園）は両方の目的に向けて教育が行われる場である。そして、「キリスト教主義」の立場でキリスト教教育が実践される時、日本社会が直面する問題に対処できる教育機関として、教育目標となる「人間像」がはっきりと掲げられるべきであると述べている。

「絶対者」の欠如は、物事の真偽を問いかけること自体を無意味だと感じさせ、人間に人生の本質を見つめること、思索することを止めさせてしまう。そして人々は混沌と閉塞の中に取り残されるとシェーファー¹⁾は語っている。現代はまさしくそのような状態にあるのではないだろうか。こうした時代にあって、「神は畏れる」ことこそが、人間が生きる上での指標を提示し、混沌からの脱出の道を備えることに繋がると信じる。そのためにも、キリスト教教育は重要であり、原理や方法を探る研究を今後の中心課題として、積み重ねる努力をして行きたいと考える。

注・引用文献

- (1) Schaffer,A.Francis *The God Who is There*, Hodder and Stoughton Limited. 1968
(多井一雄 訳『そこに存在する神』いのちのことば社 1971年)
- (2) 小原國芳『教育の根本問題としての宗教』玉川大学出版部 1950年
- (3) 岩村信二「キリスト教幼児教育の神学的検討」日本基督教団宣教研究所・第三分科編『キリスト教幼児教育の原理』日本基督教団出版部 1967年
P.71-112
- (4) 佐藤初重「幼児における宗教意識の発達」日本基督教団宣教研究所・第三分科編『キリスト教幼児教育の原理』日本基督教団出版部 1967年 P.146-151
- (5) 津守真「キリスト教幼児教育の心理学的検討」日本基督教団宣教研究所・第三分科編『キリスト教幼児教育の原理』日本基督教団出版部 1967年 P.49-70
- (6) 小林公一「緒論」日本基督教団宣教研究所・第三分科編『キリスト教幼児教育の原理』日本基督教団出版部 1967年 P.7-11